

令和7年度 収支の割合

※100%にするために、パーセントを調整している箇所があります。

一般勘定の

令和7年度決算概要

収入		(単位：百万円)
一般保険料	12,191	
その他収入	30	
経常収入合計	12,221	
調整保険料	179	
高額医療交付金他	529	
別途積立金繰入	1,000	
収入合計	13,929	

支出	
事務費	184
保険給付費	6,343
納付金	5,574
前期高齢者納付金	2,742
後期高齢者支援金	2,832
保健事業費	648
その他支出	9
経常支出合計	12,758
財政調整事業拠出金他	182
支出合計	12,940

収支	
経常収支	-537
総収支(別途積立金繰入含む)①	989
別途積立金繰入②	1,000
①-②	-11

収入 13,929百万円

調整保険料

179百万円 (1.3%)

健康保険組合間の財政調整のための別枠保険料として納めていただきました。

高額医療交付金他

529百万円 (3.8%)

別途積立金繰入

1,000百万円 (7.2%)

健保組合の財産である別途積立金を取り崩して収支のバランスを図りました。

一般保険料

12,191百万円 (87.5%)

組合運営の大切な財源として、事業主と被保険者のみなさまに納めていただきました。

その他の経常収入

30百万円 (0.2%)

支出 12,940百万円

財政調整事業拠出金他

182百万円 (1.4%)

健康保険組合間の財政調整のために、健康保険組合連合会へ拠出しました。

その他の支出

9百万円 (0.1%)

事務費

184百万円 (1.4%)

保険給付費

6,343百万円 (49.0%)

みなさまが病気やけがをしたときの医療費や各種の給付金として支払いました。

納付金

5,574百万円 (43.1%)

前期高齢者医療給付のための納付金、後期高齢者医療制度への支援金へ拠出される納付金は、一般保険料の約46%を占め、財政圧迫の大きな要因となっています。

保健事業費

648百万円 (5.0%)

特定健診・特定保健指導や、健診費用補助など、みなさまの健康づくりを応援するための費用として支出しました。

基礎数値

一般勘定

項目	令和7年度実績
平均被保険者数	23,078人
平均被扶養者数	14,517人
平均標準報酬月額	385,254円
平均賞与支給月数	3.64か月
保険料率(含調整保険料率)	9.0%

介護勘定

項目	令和7年度実績
平均第2号被保険者数(40歳～64歳の本人・家族)	15,825人
平均第2号被保険者本人数(40歳～64歳の本人)	12,685人
平均標準報酬月額	428,654円
平均賞与支給月数	3.92月
保険料率(含調整保険料率)	1.8%

介護勘定の

令和7年度決算概要

収入		(単位：百万円)
介護保険料	1,578	
収入合計	1,578	

支出	
介護納付金	1,301
支出合計	1,301

収支	
介護勘定収支	277

一般勘定

保険料収入は、前年度比162百万円減の12,191百万円となりました。

支出面は、保険給付費は235百万円減の6,343百万円、納付金は488百万円減の5,574百万円で、経常収支は537百万円の赤字になり、積立金が12百万円減少しました。

令和7年度決算のポイント

被保険者数は、前年度比1,171人減少しましたが、平均標準報酬月額が増加した結果、保険料収入の減少は162百万円に留まりました。

一方で支出は、保険給付費が235百万円減少、高齢者医療制度への納付金が488百万円減少したため、経常収支の赤字

幅は1,088百万円から537百万円に、積立金の減少幅は748百万円から12百万円に縮小しました。

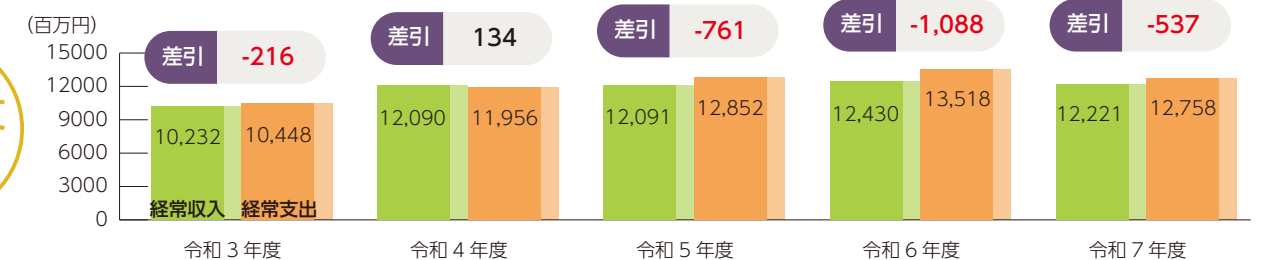
収支は前年度比では改善しましたが、3年度連続で積立金が減少しております。また、高齢者医療制度への納付金は今後増加する可能性があり、健保組合の財政や料率にも大きく影響してくるものですので、みなさまにおかれましては医療費適正化や健康管理などにご協力いただきますよう、お願いいたします。

介護勘定

保険料収入は前年度比36百万円減少しましたが、介護納付金が前年度比133百万円減少した結果、総収支は前年度の181百万円から277百万円に黒字幅が拡大しました。

一般勘定

経常収支の推移



財産状況の推移

